

1 調査経過

今回の調査は、興福寺南大門の全面的な発掘調査である。

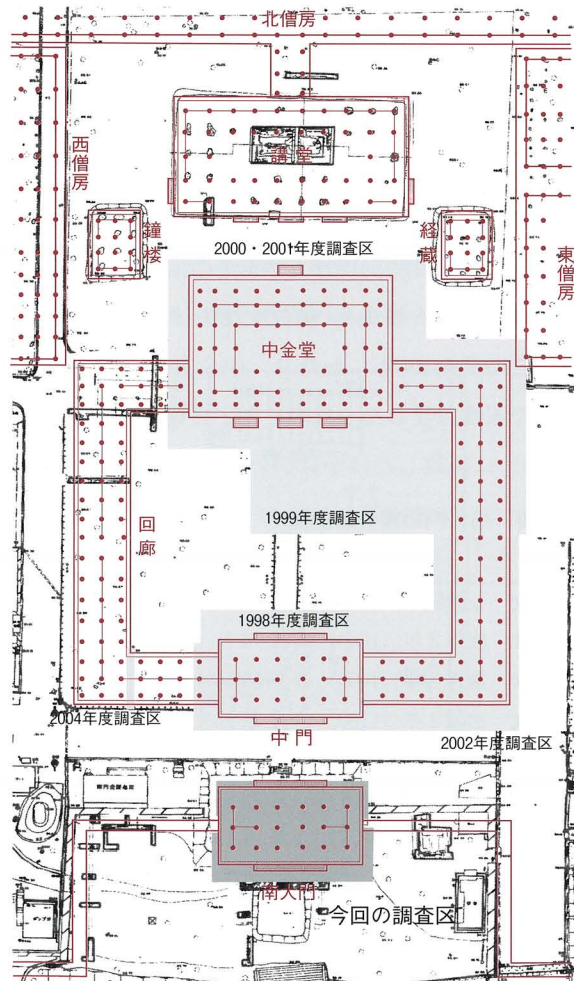
興福寺第1期境内整備事業にともない、奈良文化財研究所は興福寺中金堂院の発掘調査を順次おこなってきた。1998年度に中門（841.5㎡）、1999年度に東面回廊の北半と中金堂前庭部（1485㎡）、2000～2001年度に中金堂と北面回廊の一部（1836㎡）、2002年度に東面回廊・南面回廊の調査（981㎡）を実施し、2004年度には南面回廊の一部を調査している。これらの調査からは数年を隔てるが、今回の調査もこの境内整備事業の一環であり、中金堂院とその周辺における発掘調査の掉尾を飾るものである。なお、南大門の周辺では、1976年に防災設備設置工事にともなう部分的調査がおこなわれており、南大門の東西で基壇建物2棟、南大門の南側で礎敷および石組溝が見つかった。

発掘調査以前の南大門跡は芝生で覆われた土壇で、その上には花崗岩の石敷があった。石敷の表面にはおもだか沢瀉など数種の刻印があり、過去に調査例がある（岡田保造編『興福寺南大門跡—石敷刻印調査報告一』大阪成蹊女子短期大学一般教育研究室、1986）。寛政3年（1791）刊行の『大和名所図会』には、南大門における「をもだか」の刻印についての記事があり、石敷が近世にさかのぼる可能性があった。このため、石敷については興福寺が記録作成ののち、2009年7月上旬に撤去した。

発掘調査は2009年7月13日に始まり、同年12月22日に終了した。調査面積は774㎡である。今回の調査により、南大門の基壇規模・建物規模や基壇外装の変遷、南大門造営以前の地形や基壇の築造工程などが明らかとなった。また、同年11月には基壇中央で鎮壇具の発見があった。（森川 実）

第1表 調査経過

7月1日	調査区設定・レベル移動。
7月6日	南大門土壇上の石敷撤去開始。
7月13日	人力による表土除去開始。基壇土見えはじめる。
7月29日	金剛力士像台石SX9364を検出。
7月30日	南大門の基壇周りに盛土（茶褐色土）ありと判明。
8月3日	瓦廃棄土坑SK9426を掘り下げ。
8月18日	基壇北東部に重機を投入し茶褐色土を除去。
9月3日	基壇南東隅にて地覆石および雨落溝を確認。
9月14日	基壇東南部で雨落溝SD9387を検出。
9月24日	記者発表。
9月27日	現地説明会。聴衆2,265名と多く、過去最高の人出。
9月28日	調査区南東部で灰褐色土を掘り下げ、SX9420検出。
10月9日	東築地塀の南側でSD9386を検出。
10月14日	クレーンによる空中測量。
10月15日	全景写真および細部写真の撮影。
10月19日	実測作業開始（～10月30日まで）。
11月4日	鎮壇具埋納穴SX9361検出。
11月6日	鎮壇具取り上げ。同日中にX線撮影を実施。
11月18日	基壇断割で掘込地業の北端を確認。
11月26日	中央断割南端で基盤層を確認。
12月10日	鎮壇具の発見・断割調査の成果について記者発表。
12月14日	中央断割西壁にて土層剥ぎ取り（～12月15日）。
12月16日	中央断割ようやく埋め戻し開始。
12月22日	断割埋まる。砂撒きののちシートで覆う。



第1図 発掘調査位置図（1：1500）